

マルチチャネルオシロスコープソフトウェア (MCS) アップデート、バージョン 1.44



この TiePie エンジニアリングニュースは、マルチチャネルオシロスコープソフトウェア (MCS) の最新バージョンであるバージョン 1.44 のリリースをカバーしています。ソフトウェアの新機能とその他のソフトウェアの改善点の概要を説明します。

新しい信号処理 I / O が追加されました

- 位相差 I / O
- RMS I / O
- スライス I / O
- I2C デコーダ I / O
- UART / シリアルデコーダ I / O

設定ウィンドウの新機能

カテゴリ別に分けられた I / O 作成メニュー

テーブルシンクの新しい機能

グラフでのズームとパンが簡単

チャンネルの新しいプローブ設定

その他の変更

マルチチャネルオシロスコープソフトウェア (MCS) アップデート、バージョン 1.44

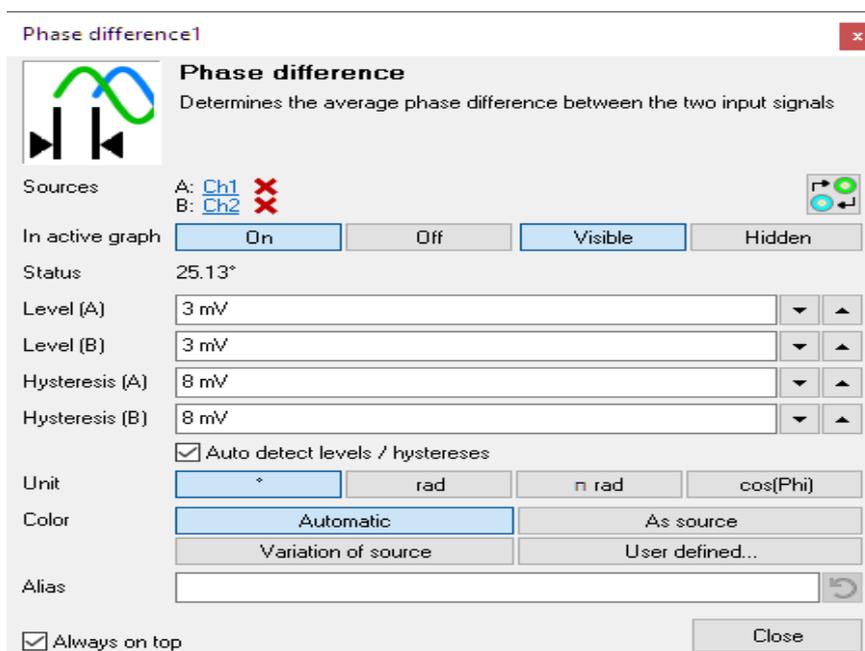
マルチチャネルオシロスコープソフトウェア (以下 MCS) のバージョン 1.44 がダウンロード可能になりました。新しい機能を追加し、ソフトウェアの基本的な操作を改善するために、多くの変更が加えられました。以下は、いくつかの変更の分類別概要です。

新しい信号処理 I / O が追加されました

信号を処理し、信号から最大限の情報を取得できるように、多数の新しい I / O がソフトウェアに追加されました。

位相差 I / O

新しい位相差 I / O がソフトウェアに追加されました。これは、2 つの測定信号間の平均位相差を決定します。



Phase difference I/O settings window

RMS I / O

新しい RMS I / O がソフトウェアに追加されました。これは、測定された信号の二乗平均平方根値 (RMS) を決定します。データロガーに RMS 値を記録するために使用されます。

RMS
Determines the Root Mean Square value of the input signal

Source: Ch1

In active graph: On, Off, Visible, Hidden

Output range: Maximum 2 V, Minimum 0 V

Symmetrical
 Fixed
 Snap to standard range

Color: Automatic, As source, Variation of source, User defined...

Alias: []

Always on top [Close]

RMS I/O settings window

スライス I / O

新しいスライス I / O がソフトウェアに追加されました。入力信号からスライスを切り取り、スライスの前後の部分を削除します。スライス I / O の一般的な用途は、測定の不要な部分を削除することです。全体の測定よりも(はるかに)短い特定の現象をキャプチャするために長い測定が実行された場合、スライス I / O を使用して、関心のない部分を削除できます。元の時刻情報は保持されます。

Slice
Outputs a selectable slice of its input data.

Source: Ch1

In active graph: On, Off, Visible, Hidden

Range: Left 0 s, Right 1 μs

Use active graph cursor range
Use active graph visible range

Output range: Maximum 2 V, Minimum -2 V

Symmetrical
 Fixed
 Snap to standard range

Color: Automatic, As source, Variation of source, User defined...

Alias: []

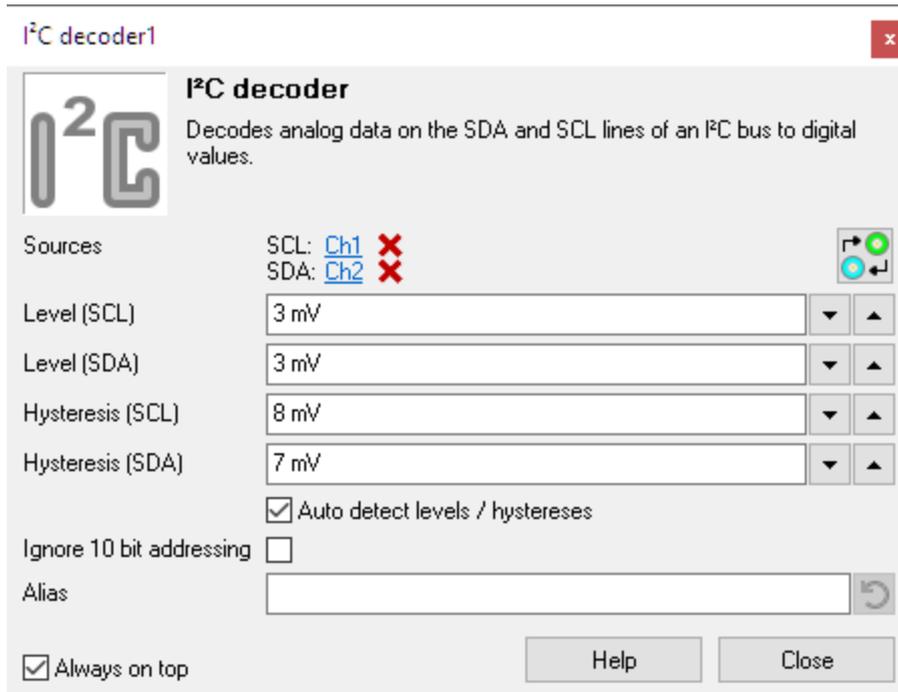
Always on top [Close]

これにより、興味深い部分の処理と保存がはるかに効率的になります。

Slice I/O settings window

I2C デコーダー I / O

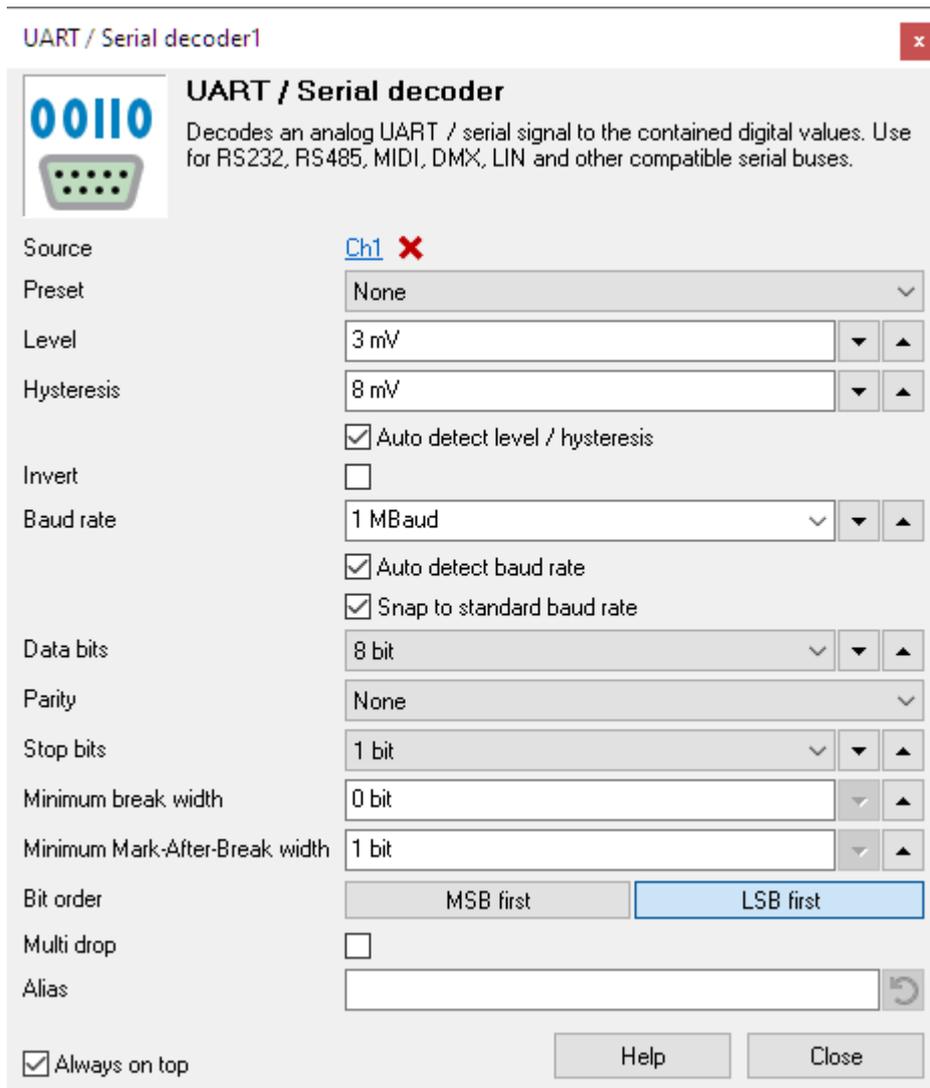
新しい I2C デコーダー I / O がソフトウェアに追加され、既存の I2C アナライザースィンクが置き換えられます。I2C デコーダー I / O は、I2C バス上のアナログデータを I2C データにデコードします。スコープを使用して I2C バスのクロックラインとデータラインを測定し、測定チャンネルを I2C デコーダー I / O に接続するだけです。I2C デコーダー I / O には、自動レベル検出と自動バス速度検出があります。I2C デコーダー I / O の出力は、テーブルシンクに表示できます。



I2C decoder I/O settings window

UART /シリアルデコーダー I / O

新しい UART /シリアルデコーダー I / O がソフトウェアに追加され、既存のシリアルアナライザースィンクが置き換えられます。UART /シリアルデコーダー I / O は、シリアルバス上のアナログデータをシリアルデータにデコードします。UART、RS232、RS485、MIDI、DMX、LIN、またはその他の互換性のあるシリアルバスを監視および分析するために使用できます。UART /シリアルデコーダー I / O には、自動レベル検出と自動ボーレート検出があります。UART /シリアルデコーダー I / O の出力はテーブルシンクに表示できます。

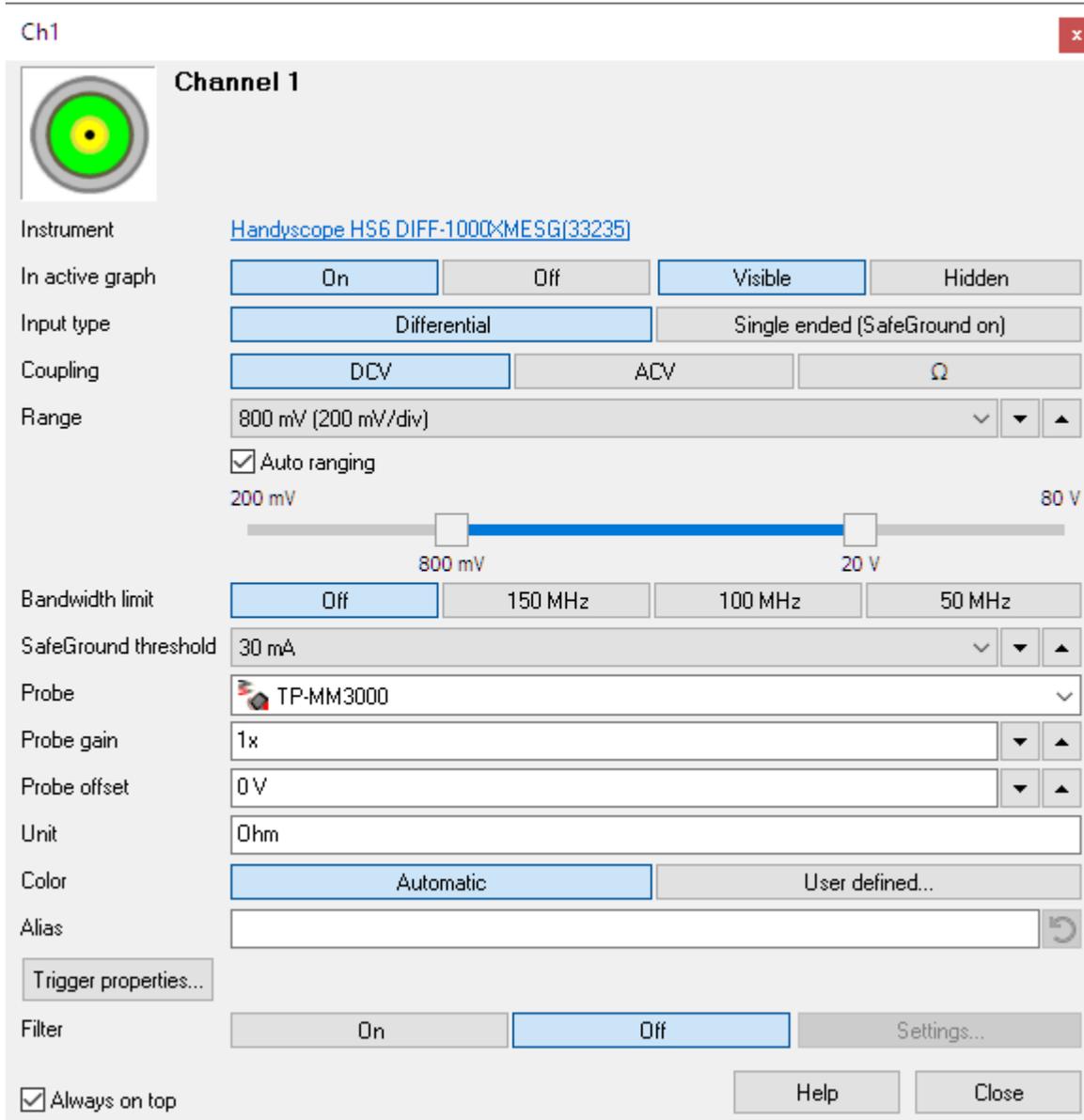


UART / Serial decoder I/O settings window

設定ウィンドウの新機能

インストゥルメント、チャンネル、I / O の設定ウィンドウにさまざまな新機能が追加されました。

- クリック可能なリンクが追加され、チャンネルが属する機器設定ウィンドウが開きます。
- 測定信号のフィルタリングを簡素化するために、チャンネルの背後に**フィルター-I / O** を直接追加するためのボタンが追加されています。



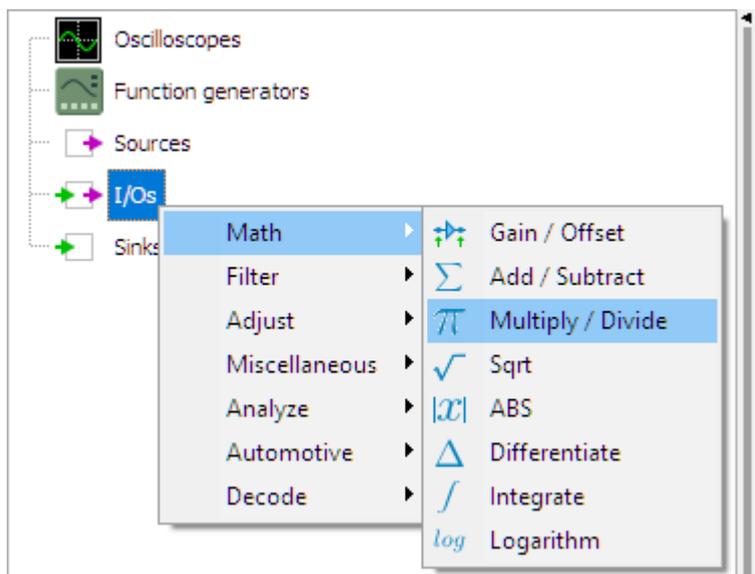
Channel settings window

- I / O: 設定ウィンドウで I / O のソースを接続および切断できるようになりました。
- 上/下編集コントロールで、マウスホイールを使用して値を変更できるようになりました。
マウスはコントロールの上に配置する必要があります。
- いくつかの設定には、設定をデフォルト値にリセットするためのリセットボタンがあります。
 - [エイリアス]フィールドをリセットすると、フィールドがクリアされ、チャンネルまたは I / O の元の名前が再び表示されます。
 - [Gain / Offset I/O](#) のゲインまたはオフセットをリセットすると、ゲインが 1 に戻り、オフセットが 0 に戻ります。
 - [Deskew I/O](#) のスキューをリセットすると、0 にリセットされます。

カテゴリ別に分けられた I/O 作成メニュー

オブジェクトツリーで I/O を作成するために使用されるメニューは、カテゴリに分割されました。

- **Math** : 1 つ以上の信号に対して基本的な数学演算を実行します
- **Filter** : 1 つまたは複数の信号に対してフィルタリング操作を実行します
- **Adjust** : 1 つまたは複数の信号に対して調整操作を実行します
- **Miscellaneous** : 1 つまたは複数の信号に対してその他の操作を実行します
- **Analyze** : 入力データを分析し、そこから特定の情報を抽出します
- **Automotive** : データに対して自動車固有の操作を実行します
- **Decode** : 入力データからシリアル通信データをデコードし、デコードされたメッセージを表示します



Categorized I/Os

分類された I/O

テーブルシンクの新機能: テーブルシンクにいくつかの新機能が追加されました。

テーブルの行をダブルクリックすると、アクティブなグラフがテーブルの行に対応するシグナルの部分にズームインします。これにより、測定された信号内でプロトコルデコーダの特定のデコードされたメッセージを簡単に見つけることができます。オプションで、カーソルを開始点と終了点に置くことができます。ツールバーが再配置され、新しいボタンが追加されました。

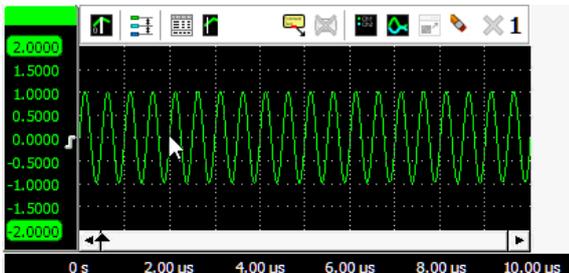
- : テーブルでのデータ収集を有効/無効にします
- : 行をダブルクリックすると、開始点と終了点にカーソルが置かれます
- : 列選択ダイアログを開きます
- : ソースの設定ウィンドウを開きます

列の配置、列の可視性、行の色に関して、プロトコルデコーダの特定のサポートが追加されました

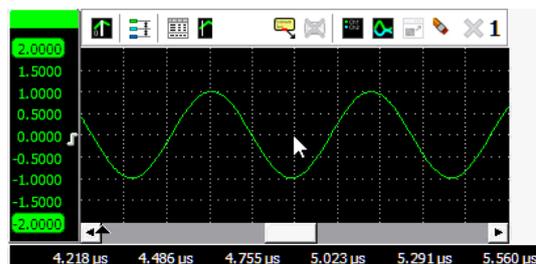
グラフでのズームとパンが簡単

グラフの水平ズームと信号のパンは、マウスホイールを使用することで簡単になりました。ホイールを上げると、グラフがマウスの位置を中心に水平方向に拡大されます。ホイールを下げると、グラフはマウスが置かれている場所を中心に水平方向にズームアウトします。

ズームインすると、マウスの右ボタンを押したまま信号を左または右にドラッグすることで、グラフを水平方向にパンできます。



Horizontal zooming using mouse wheel



Drag with right mouse button pressed

チャンネルの新しいプローブ設定

チャンネルのプローブ設定が拡張されました。

- 信号にオフセットを追加するプローブとセンサーを補正するために、プローブオフセット設定が追加されました。
- ミリオームメーターTP-MM3000 がプローブメニューに追加されました

その他の変更

機器の制御と測定の実行を改善するために、ソフトウェアに小さな変更と修正が加えられました。

「デジタル」信号を処理するすべてのデコーダーI/Oおよびその他のI/Oに、自動レベルおよび自動ヒステリシス検出が追加されました。

[Meter sink](#): メーターディスプレイのソースラベルをクリックすると、ソースの設定ダイアログが開きます(ソースに設定ダイアログがある場合)。

[DiskWriter](#) / [Meter](#) / [Compression test](#) シンク: ダイアログのキャプションにソース名も含まれるようになりました。

- 修正:
 - Windows10 での [WiFiScopes](#) のネットワーク検索を修正しました
 - 2 台目のユニットのチャンネルが使用されていない 2x [Handyscope HS6 DIFF](#) を組み合わせたストリーミングを修正しました
 - 自動測定の誤った単位を修正 対数信号での最大-最小およびトップ-ボトム

- [Meter sink](#):
 - ストリーミングデータをディスクに記録するときのタイムスタンプを修正しました
 - 修正:ソースが [Data collector](#) の場合、計算には実際に測定されたデータのみを使用
- 表示された信号の長さが 1 サンプルしかない場合の [Graphs](#) の補間を修正しました
- [Object tree](#) で [Filter I/O](#) と [Ideal Filter I/O](#) を一緒に右クリック時のアクセス違反を修正した
- [Table sink](#):
 - 修正:サイズ計算に常にヘッダー幅を含める
 - 修正:初期データが追加されたときにのみ列が大きくなるようにする

マルチチャネルオシロスコープソフトウェアの最新バージョン 1.44 は、
[Multi Channel oscilloscope software download page](#) からダウンロードできます。



TiePie engineering社 総代理店

サンシステムサプライ(株)

Tel: 03-33975241 Fax:03-3399-2245

E-mail: info@sunss.co.jp

www.sunss.co.jp